「令和8年度 大学スポーツ総合支援事業」企画提案書（事業概要資料）

③大学スポーツによる地域振興等の推進事業［地域課題解決型］

大学名	中央大学

実施計画名	中央大学杯スポーツ大会（地域課題解決に向けた大学スポーツ資源の広域実証事業）
事業概要	**①【スポーツ競技大会】4種目の広域連携競技大会の開催** 多摩地域9市教育委員会の後援に基づく計71チーム・延べ約1,100名のジュニアアスリートが競う広域大会。単なる競技力の優劣を競う場に留めず、地元の地域団体や他大学の学生スタッフとも強固に協働・連携する。学校やクラブ、大学、世代の垣根を越えた「地域に開かれた多世代交流プラットフォーム」として機能させる。 **②【スポーツ×フェスタ（両輪）】大学スポーツ資源を活用した「スポーツ教室」「スポーツ体験会」の開催** 学生アスリートによる「スポーツ教室」を無償提供し、部活動地域移行期の指導者不足を補完。参加者が専門知識を部活へ持ち帰りを主導する『自律還元型』モデルを実証する。あわせて未経験者向け「スポーツ体験会」を同時開催し、ジュニア層の生涯スポーツの裾野を広げるとともに、付き添う保護者層（働く現役世代）へ受動的な待機時間を解消する手軽な運動機会を提供して日常の運動不足解消を促す。 **③【地域交流フェスタ】多世代交流型「地域連携・協力イベント」の展開** 518,401㎡の多摩キャンパスを活用し、「キャンパス周遊スタンプラリー」、「ストラックアウト」や「ティーバッティング」、「ボッチャ」などの気軽にできるスポーツ、「企業ブース」、「地元キッチンカー」を併設。多世代が楽しめる空間を創出。『地域への知識・技術の集中的な還元ハブ』として最大限に活用する。

■対象地域が抱える課題

対象地域	東京都多摩地域9市（八王子・日野・多摩・稲城・立川・府中・国立・町田・東大和）

① 多世代・地域コミュニティ：日常的な「交流機会・参画機会の不足」と「つながりの希薄化」
② ジュニア層（小・中学生）：部活動地域展開に伴う「指導体制の未整備」と「安全な活動場所の減少」
③働く現役世代（20代～50代）：生活様式に伴う「慢性的な運動不足」と「ニーズの多様化」
④シニア層（高齢者）：インフラの障壁による「健康寿命延伸・閉じこもり予防の停滞」

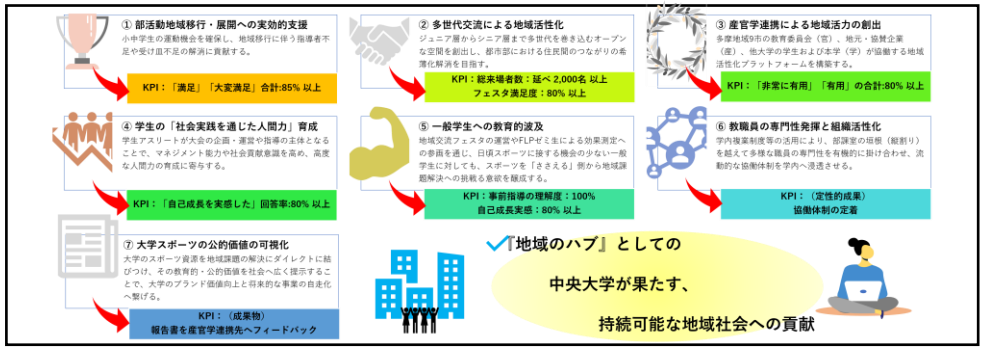
■活用する大学スポーツ資源

①施設・設備資源
グランド、体育館等の施設を大会やスポーツ教室・スポーツ体験会、地域イベント会場等して活用
②人材資源（学生アスリートと学生組織）
学友会体育連盟・同好会連盟所属学生、FLPゼミ生、応援団学生、一般学生ボランティア学生
③組織・運営資源（教職員の専門性と推進体制）
4部課室が一体となった実施本部のもと、本学独自の「学内複業制度」を活用して大規模イベント運営や地域連携ノウハウを持つ専門職員を最適配置する強固なガバナンス体制。

■主な参加者･想定人数

区分	内容	人数
管理者（大学教職員等）	実施本部、救護、施設管理、警備	57名
運営スタッフ（学生）	運動部学生、一般学生	118名
大会参加チーム（約71チーム）	中学生600名、小学生500名	1,100名
協力団体（審判･他大学）	審判、学生審判員･学連スタッフ	24名
一般参加者（近隣住民等）	一般の参加者	900名

■期待される事業効果



■事業の実施体制図（学内体制に留まらず、地域の組織･団体との連携体制も示すこと）

